

| 方剂名 | 効能     | 生薬組成  |
|-----|--------|-------|
| 書籍  | 主治および証 | 病機 方意 |

表裏双解剂 解表温裏剂

ごしゃくさん  
五積散

發表温裏・燥湿健脾・理気化痰  
活血消積

白芷・川芎・炙甘草・茯苓・当帰・肉桂・白芍・半夏各2g・陳皮・枳殻・麻黄各4g・蒼朮16g・桔梗8g・乾姜・厚朴3g  
水煎し服用する。粉末にし1回9gを生姜と水煎し服用してもよい。

和剂局方

<主治>

外感風寒、内傷寒湿

発熱、無汗、頭痛、身体痛、項背部のこわばり、胸苦しい、厭食、嘔吐、腹痛、下痢、舌苔が白滑などを呈す。

<病機>

外感風寒と同時に内傷生冷、脾運不足などがあり、寒、湿、気、血、痰の五積を伴った状態である。

風寒の邪が肌表を閉塞し、発熱、無汗、頭痛、身体痛、項背拘急などの表実証がみられる。生冷物の摂取による脾胃の損傷あるいは脾胃の運化不足による痰湿内停で、気血瘀滞が生じるために、胸苦しい、厭食、嘔吐、腹痛、下痢などの症候が現われる。舌苔が白滑は寒湿をあらわす。

<方意>

本方（五積散）は、「寒・湿・気・血・痰」の五積に対処するもので、「五積散」と名づけられている。

発汗解表と温裏散寒を主とし、健脾燥湿、理気化痰、活血消積を補助にし、寒邪による気血痰湿の積滞を除去する。

発汗解表の麻黄・白芷と、温裏散寒の乾姜・肉桂が主薬で、内外の寒邪を除く。蒼朮・厚朴は燥湿健脾に、陳皮・半夏・茯苓は理気化痰に、当帰・川芎・白芍は活血止痛に働き、湿、痰、気、血の積滞を除く。桔梗と枳殻の配合は、気機の昇降を促進し理気化痰の効果を強める。炙甘草は和中健脾すると共に、諸薬を調和させる。

<参考>

加減法

表虚で汗が出ているときは、麻黄・蒼朮を除く。

気虚が明らかなら、人参・白朮を加える。

腹痛、悪心、嘔吐など胃寒がつよければ、呉茱萸・煨姜を加える。

陽虚で四肢の冷え、自汗がみられるときは、附子を加える。

悪寒が強ければ、肉桂を桂枝に代える。

本方（五積散）は、行気活血、温裏散寒の効能をもつので、気血不和、寒凝気滞による胸痛、腹痛、月経不順などに加減応用できる。

日本での保険適応効能、効果

慢性に経過し、症状の激しくない次の諸症；胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、冷え症、更年期障害、感冒